

ミラーニューロンシステムの構築には人の手を介した学習が必要と述べましたが、鏡に映った自分の行動を見ながら、動画像と身体センサー・アクチュエータ値との連想を創れば、ミラーニューロンシステムは人手を介さずに自律的に学習できます。それには、自分のセンサー・アクチュエータ値のありかた、または、「意志」といったものと、動画像解析で得られる人体骨格の動きとか、人とか自然とかのやりとりを交差法で対応を精密化していくことで行えるということです。特に、手を動かすと、自分の意志で動く画像要素は、手だと認識できるわけです。

動画像とシーンとか、自分、他者の認識とか、動きの意味の認識の基盤は、チャンクでくられるはずで。身体が、頭、胴体、手足と分離しているように、世の中は細かな要素でできていると想定するのが、情報処理の基本ですから。交差法が威力を発揮する所以です。

おわり